

「新たなまちづくりを考える講演会」 パネルフォーラム発言要旨

コーディネーター 吉岡 宏高氏
パネラー 桐木 智一氏（ペンション「和みの風」経営）
小松田 義人氏（北洋銀行清水支店長）
桜井 美紀子氏（パセリの会 会長）
横山 一男氏（前清水町教育長）

吉岡 大きなテーマは「10年後清水町はどこへ向かえばいいか」「どんな町にしたいか」ということ。「何ができるか」ではなく、「こうありたい」という姿。できるかどうかはわからないが、こうなっていたいと思うこと。そこが大きなテーマとなるが、その前段として、それぞれのパネラーの皆さんから、清水町について思うこと、ここが良い、ここはもう少し何とかならないか、そういう現状認識をお話しいただきたい。



横山 私は教育の面からお話ししたい。現状について4つの視点から申し上げる。

1点目は本町の教育推進の基軸について。理念としての「打てば響く心に響く」の「心響」、この理念を進める指針としての町民総ぐるみで進めようという「しみず教育の四季」、さらにはライフサイクルに応じた人のあり方としての「風・香・色・人」、これらについては少しずつではあるが浸透してきていると思う。町の教育方針がよく見えるものになっていると思う。

2点目は学校教育について。先ほど清水小学校と御影小学校の代表の方から発表があり、吉岡先生からも高い評価をいただいてうれしく思うが、教育特区を活用した小学校低学年における「少人数学級」の展開、就学前教育を重視した「幼保・小の連携」、さらに地域の教育力を生かした「学校支援ボランティア」の導入、また給食センターを中心とした「食育」の推進、そして閉校した校舎を活用した特区による「通信制高校」の開設など、全国的にも注目される特色ある活動だと思っています。

3点目は社会教育について。先ほど吉岡先生からもお話があったが、町には歴史ある味わい深い文化がある。町民による5年に1度の「第九の合唱」であったり、文化協会や体育協会を中心とした諸活動。文化協会は創立50周年、体育協会は創立60周年の歴史を刻んできた。さらに子ども関連では、これも清水の大きな特徴だが、「伝統文化子ども教室」の実施だとか、「生活リズム学校」の開設だったり、

「放課後子どもクラブ」の推進だったりとか。元気な町のひとつの現われかと思っている。



4点目は子どもたちの活躍。学習・文化・スポーツと各分野での大活躍が光る。また、生活規範やマナーがよいという声を耳にする。このことが学力にも結びついている気がする。子どもが非常に輝いている。

課題についても4点申し上げる。1点目は、町民一人ひとりの教育に「関わる意識」がどうかと思う。もちろん意識はあるが、充分かどうか。

2点目は自らが「創り出す意欲」、これはあると思うが、充分かどうか。

3点目は「子どもから学ぶ大人の姿」。子どもから学ぶことはたくさんある。それを真摯に、謙虚に大人が学んでいけるのではないかと思う。

4点目は「ほめること、しかること、うなずくこと、相槌を打つこと」。これらが充分かどうか。もっとあっていい気もする。

吉岡 最後の指摘は、まさにまちづくりにも当てはまる。人の話を聞くということが出来なくなっている。傾聴力。そこはがんばって行かなければならないポイントだと思う。

小松田 入行から20数年になり、今まで札幌中心に岩見沢、苫小牧、余市に勤務した。十勝は昔から行ってみたいと思っていたが、なかなかチャンスがなかった。子どもができてから、新得町のサホロリゾートに数度行ったことがある。仕事で十勝に来たのは今回が初めて。

清水町の良いところはたくさんある。まず「景色」。日勝峠から見える大平原の風景は驚きだった。また、平野から見上げる日高山脈、大雪山系も見事。みなさんは毎日見ていると気付かないかもしれないが、目の前にそびえる山々には目を奪われた。写真を撮って個人のブログに掲載しているが、全国の方が見ていて、清水の景色を楽しみにしているようだ。

あとは「澄んだ空気」。夏に肉眼で天の川を見たのは初めて。上清水で満天の星空を見てびっくりした。最近良くウォーキングをするが、月明かりだけで歩けるほど空気が澄んでいる。

また、ペケレベツ川など、「川の水」がきれい。特にフロイデに行く途中の赤いアーチ橋からの眺めはすばらしい。季節によって川の色が変化していく。

あとは「人」。みなさん気さくな方ばかりで、よく声をかけられる。

気がついたところは、若い人があまり目立たないこと。会合に出ても年配の人が多し。もっと若い人に権限を委譲していても良いのではないか。若い方もたくさんいるので、いろんな場面で活躍して欲しい。

また、IT技術が普及し、情報発信が瞬時に出来るようになった。今後の課題は加工品だと思う。清水産の加工品ができて、それが全国的に広まればかなりの経済効果があるのではないかと思う。

自然環境のすばらしさなど、潜在的なポテンシャルは非常に高く、将来性は期待できる町だと思う。

吉岡 小松田さんは外から来た方なので、ずっと清水にいる方とは違う視点があると思う。これは桐木さんも同じですね。

桜井 私はずっと清水に住んでいるので、清水の良いところ、悪いところはよく分からない。ただ、日高山脈を見るといい景色だと思うし、旅行に行っても3日もすれば清水に帰りたくなる。やっぱり「私にとって清水が一番良い町」です。

「パセリの会」は食生活改善推進員の養成講座を終了した人で会を作っている。全国組織で、清水町の会員は50名ほど。「私たちの健康は私たちの手で」をスローガンに地域の健康づくりに取り組んでいる。活動としては、小学校から老人クラブを対象に年間20回ほど教室を開催している。小学校は親子を対象に「わくわく教室」を開催している。大人向けには食生活改善、老人クラブでは減塩などをテーマに教室を開催している。



食べられないと生きていくことが困難になる。1日でも長く健康に暮らすために、身体に合った食生活が大事。食を知り、安全安心な食材を見極めることが必要。また、これは一生続けるべき学習で、全ての人に必要。

清水町には新鮮な食べ物がたくさんある。食育の重要性が叫ばれているが、消費者、生産者、企業、行政が一体となって取り組んでほしい。様々な人たちの手で取り

組み、一日でも長く健康で暮らせるようになってほしい。若い人にももっと関心を持ってもらえれば、新しい展開も生まれるのでは。私たちの活動がまちづくりに少しでも役立ってほしい。

吉岡 いくら良いことを言っても、健康でなければ何もできない。食育や食生活改善の取り組みは、まちづくりにとっても非常に重要なことだと思う。

桐木 まず清水町の良いところは、みなさんおっしゃるように「自然と食材」。「きれいな水と空気」があり、非常に良い町だと思う。また、十勝の中では「札幌に近い」ことも、清水に宿を構える理由の一つだった。この講演会に出るにあたって、知人に清水町の良いところを聞いてみたが、「なんだろう？良いところなんて無いなあ」という答えが多かった。それが非常に残念。自然や食材などすばらしい物がたくさ

んあるのに、町民のみなさんがそれを「誇りに思っていないのが残念」に思う。町の存在感が薄いと言う人もいるが、それも残念だと思う。

吉岡　　まずは現状認識、どういうところに関心があってどういう活動をしているかを話してもらった。では本題に入って、これから 10 年後の話をしてもらう。今回の計画策定はこれから 10 年後を見据えて行うことになるが、10 年後の清水町の姿をどう描いているか、お話しいただきたい。

小松田　自宅は札幌にあるが「、清水に移り住みたいと思えるような町」に 10 年後なっていてほしい。そのためにはどうすればよいかを考えたが、日勝峠を降りてくると牧場のサイロが目につく。現在サイロは使われていないが、それを町のシンボルとして活用できないか。清水は色で言えば「青と白」だと思う。全てのサイロを青と白に塗れば、それだけで清水に来たと実感できる、楽しい町になるのではないか。

また、酪農家がたくさんあるのに「チーズ工房」がないのが残念。色々理由はあると思うが、客観的に見てそう思った。

昨年高校時代の友人たちとフロイデのコテージで焼肉をした。友人たちが私のブログを見て清水に来たいと言ったので、みんなで集まった。一番感動された食材は「アスパラ」。東京ではあんなに柔らかくておいしいアスパラは手に入らないと言っていた。食事をして温泉に入って自然を見るだけで、充分満足していた。「人を呼びたくなるような自然と食」というのがポイントだと思う。

あとは自発的な町だと良いと思う。名寄市に道の駅があるが、もち米農家が集まって販売をしたのが始まり。伊勢名物の赤福の原料を生産していたが、自分たちでも作れるのではないかと思い、農家が会社を立ち上げて大福を作り始めたそう。ソフト大福という商品だが、爆発的なヒットになっている。道の駅だけでなくネット販売もしている。農産加工には色々な可能性があるのだと思う。

吉岡　　道の駅といえば、赤平には自分で道の駅を作ってしまった人もいる。自分でやる場を用意して、全国各地でがんばっている人がいる。

桐木　　よく観光やまちおこしの話が出るが、「観光は何のために、誰のためにやるのか」というのが大事だと思う。

なぜかというと、私は美瑛や富良野が好きで、観光地として成功した地域だと思うが、観光と農業が共存できていない印象を受ける。景観を売りにしているが、それでメリットがあるのは商業者だけなのかと思う。観光客が来れば来るほど、農家からは苦情が出るそう。観光による間接的なメリットはあるかもしれないが、観光客が畑に勝手に入ったり、渋滞が起きたり、直接的にはデメリットばかり受けていて、観光と農業が対立関係にあるような構図がある。

そういう問題を考えたときに、何のために観光を進めて行くかという点が大事になると思う。観光客に来てもらってお金を落としてもらうのは確かに大切なことだが、果たしてそれが一番なのか。それとも、十勝の清水町というところを知っても

らうのが一番なのか、移住者を引き寄せるための観光なのか。これから進めていこうとする観光がどれに当てはまるのかを考えた方が、よりゴールに近付くと思う。

よく観光で町を元気にしようという話が出るが、「何をもって元気とするのか」をはっきりさせないと、上手く行かないことが多いのではないかと、それが決まらなると、ターゲットを定めることは難しい。年齢構成や性別など、ターゲットとして挙げる項目は色々あるが、そういう部分を決めるためにも、「何のために、誰のために観光を行うのか」を決める必要がある。

清水町の売りとしては、もちろん自然環境も素晴らしいが、やはり「野菜や牛乳のような農作物」だと思う。農家の皆さんがこだわりを持って作っている。そういった本物の農作物をもっと知ってもらいたいと思う。生産者と観光客をつなぐ仕組みを作ることが大事だと思う。

例えば、子ども達が作り手のもとに宿泊し、土に触れて体験することで勉強する「子ども農山漁村交流プロジェクト」に清水の農家が参加することも、一つの方法だと思う。受け入れ態勢など問題もあると思うが、こういう方法もあると思う。



また、去年初めて乳牛の共進会を見学して、非常に面白いと思った。関係者しか来ていないのが残念。一般の方にもわかるような説明を加えれば、もっと面白いものになるのではないかと。

あと、小松田さんの話にもあったが、私も「アスパラ」は非常にいい食材だと思う。お客さんにも大変喜んでいただいている。それをもっと売り出すために、例えば茹でアスパラを商品化しても面白いと思う。収穫したアスパラを目の前で茹でるなど、演出的な部分も含めて、やり方を工夫すれば名産になるのではないかと。

10年後を考えるとという点では、少しずつでも町を変えていこうという基礎ができれば良いと思う。何かをすることによって新しい構図が生まれるということ、一人ひとりが気付き、考えて行動して、それが少しずつ積み重なっていけば、大きな変化につながっていくのではないかと。

また、町名を「十勝清水町」にしてはどうか。他の市町村からは怒られるかもしれないが、「十勝清水町のアスパラ」というように、「十勝」というのが名前に入るだけで商品価値が上がると思う。そういうことができれば面白いと思う。

桜井 国全体で色々な問題があって、その中で清水町はどうなるんだろうと考えることもある。私の年代になると、もうこの町で暮らしていくしかない。「自分たちの健康は自分たちで守る」というのと同じように、外からの意見を聞くのは大事だが、「自分たちの町は自分たちで守る、作る」しかないと思う。もちろん、町の発展や

観光は必要だと思う。

ただ、今住んでいる町内で周りを見回したときに、少子高齢化が進んでいて、10年も経たないうちに高齢者が大半になる。私のいる町内会は 87 戸あるが、中学生以下の子どもがいるのは 10 戸程度しかない。私のいる班は 14 戸あるが、近いうちに 13 戸は高齢者世帯になる。

私はこの地域にずっと住んでいかなければならないと思っている。地域で元気よく暮らしていかなければ。元気な高齢者が知恵を出し合って、助け合って生活していけるような地域にしたい。

私は地域の人が集まって話し合える場を作りたいと思っている。空き家になっているところもあるので、そういうところを利用させてもらって、みんなで力をあわせればできることはあると思う。10 年後は高齢者が安心して暮らせる町であってほしい。

吉岡 情景が目浮かぶお話ですね。10 年後こういう町になってほしいという姿をみんなを出し合って、それを実現するための仕組みを考えたり、外の力を借りたり、協力してまちづくりを進めてほしい。

横山 10 年後の清水町のありようについて 5 点申し上げる。

1 点目は、「3 つを生かすまちづくり」ということ。

その 1 つ目は、「人」を生かすこと。特に発想豊かな若い人を活かすべきだと思う。

2 つ目は、「食」を生かすこと。食材に恵まれた清水町で、食に対する知恵と工夫を活かしたい。

3 つ目は、「流れ」を生かすこと。交通の要衝である地の利を生かさない手はない。

2 点目は、「表情豊かなまちづくり」をすべき。表情は「ことば」や「文字」や「しぐさ」に現れると思っている、人の内なる心を映すとも言われている。「ことばと文字としぐさの里づくり」構想を練って「表情豊かなまちづくり」進めて欲しい。

3 点目は、「教育の四季」から「まちづくりの四季」へという考え方。「力を合わせて心を寄せて」、「四季の変化」を生かした、「花と緑あふれる環境づくり構想」や「まち全体の公園化構想」。これを一人ひとりが実践していくまちづくりであるべきだと思う。

4 点目は、「心のコップ」を上向きにしたまちづくり。子どもに学んで、笑顔あふれる「あいさつ日本一」を目指すまちづくり。これも町を元気にする大きな要素だと思う。

5 点目は、「まちづくりは人づくり」ということ。遠回りをするようだが、「まちづくりこそ人づくり」であると思う。「しみず人四季塾」を立ち上げ、若い力を育てるべきと考えている。



最後に、「新たなまちづくり計画」を作るにあたって、気をつけてほしいことを5点申し上げたい。

1点目は、専門用語を使わないこと。子どもから大人まで、みんなにわかる平易な表記をすべき。

2点目は、町民一人ひとりが理解しやすく、イメージしやすい表記であること。

3点目は、長い文章は駄文であるということ。インパクトのある短いフレーズで表記すべき。

4点目は、全体が構造的になっていて、デザイン化されていて、視覚に訴える計画書であること。そうすれば町民が心を一つにできるのではないか。

5点目は、目標が評価可能であること。評価可能だということは、行動を目標としていて、町民一人ひとりがどの程度達成できているかを判断できるということ。そうして町民総ぐるみでまちづくりを進めていく必要があると思う。

私の考える「新たなまちづくり構想」は、ひと言で言えば「表情豊かなまちづくりの四季」の展開である。

吉岡 若い人を育てるだとか、どこに力点を置くかという話をこれからしていかなければならない。また、「あいさつ日本一」は達成基準だが、そういった基準や指針が盛り込まれていることも必要。まずはこれから10年をどうしたいかを考えることが大切です。

今日は短い時間だったが、それでも4人の方からこれだけ多様な論点が出された。日々の暮らしから、あるいは外の視点から、清水町のまちづくりについて意見が出た。今日お集まりのみなさんがそれぞれ意見を出せば、大きな議論になると思う。その中から、次の10年はどれに的を絞っていくのか、選ぶ作業を進めていく。

まとめに代えて、私から何点が申し上げる。

1つは、「10年後に自分が何歳になるか」を考えてほしい。例えば私は10年後56歳だが、その時にどういう人生を歩んでいるか。みなさんもそれぞれ10歳年をとるが、その頃には色々変わっていると思う。それに向けて、この「町の姿を自分と重ね合わせながら考えて」ほしい。外からの刺激や知恵は必要だが、まちづくりを行うのは中の人。町の人が動かないと、何も起きない。中にいると見えないこともある。

美唄市にアルテピアッツァという廃校跡を利用した彫刻美術館があって、2階がギャラリーで1階は幼稚園になっている。外の人から見ると非常に素晴らしい施設で、そこで育つ子ども達がどんな大人になるか楽しみだが、地元の人には評判が悪い。立場が変わると見方が変わってくる。外の人々の知恵と、中の人々の力をうまく組み合わせることが必要。

2つ目は、10年後何ができるか、何をやったほうが得かという視点で考えると、

道を誤るということ。学生に、今この業種が流行っているからといって就職すると、後悔するという話をしている。長く続けるには、「自分が何をやりたいのか」、「何をすべきなのか」ということを柱に考えるべきだと言っている。まちづくりも同じ。今すべきこと、自分たちがやりたいことは何かということ、中心に捉えてほしい。

また、いくら良いことをやっても、そこがしっかり出来ていないとダメだという部分がある。今回の4人では、横山さん、桜井さんの話にあった教育、健康という分野がそう。一方、桐木さん、小松田さんの話にあった観光のような、伸ばしていく部分もある。その両方をどうバランスをとるか。伸ばすだけでも、守るだけでも上手く行かない。

清水は何を伸ばすべきかという話をしたい。物で差別化しようとしても限界がある。例えば施設の豪華さだとか、値段の安さで勝負してもキリがない。「形のないもので差別化して価値をつけていく」ことが必要。例え話として、よくコーヒー豆の話が出るが、収穫した時点では、豆の値段はコーヒー1杯あたり1円にも満たない。店で豆を買くと1杯あたり20円くらい。チェーン店のカフェに行けば、1杯200円くらい。ベネチアのカフェやパリのホテルで飲むと、それが1杯2,000円になる。200円と2,000円の差は何かを考えると、それは雰囲気とか場所とか、形の見えないもの。先ほど清水の景観や自然環境の話が出ていたが、そこをどうやって農産物の価値に繋げていくか。そのためにこれから10年、暮らしをしっかりと整えて、どこに向かっていくのか考えてほしい。これから10年は練習をしていく10年。その次はそれを本格展開する10年だと思う。

清水は本当に良い時期に計画づくりをしている、また、みんなが話し合う練習をして実践をしていく場が用意された。これは千載一遇のチャンスだと思う。私も出来る限り力になりたいと思うが、町民のみなさんも一緒になってがんばっていただろうと思う。4名のみなさん、ありがとうございました。

(実行委員会の記録であり、パネラーの真意とは異なる場合があります。文責：実行委員会事務局)

